



学校法人志賀学園  
久之浜こども園  
令和7年2月28日

裏の畑にはフキノトウが顔を出し、花壇にはチューリップが芽を出し始めました。桃のつぼみも膨らみ始め、春の訪れがあちらこちらで感じられるようになってきた今日この頃です。春が近づくということは心もワクワクしてくるのか、子ども達が伸び伸びと園庭で遊ぶ姿が見られ、園全体が活気に満ちています。

『雨水』の日におひな様を飾ると良縁に恵まれるというので、園では今年も2月18日雨水の日におひな様を飾りました。するとその翌日には年長組の子ども達が玄関ホールに飾られた七段飾りのおひな様を見に来て、自分たちもおひな様を作りたいということになったようです。まず、ひな壇を作りたいということで、段ボールや牛乳パックを積んで赤い色画用紙を敷き、お内裏様とおひな様を作りました。それから、たんすや鏡台、裁縫箱や針刺し、牛車などに興味が集中して作る姿が見られました。最近ではご家庭のおひな様も簡素化になり、七段飾りは珍しいのでしょうか、特にお道具などの飾りを、凝って作っていました。ひな祭りは女の子の成長を願う行事で桃の花が咲く頃に行われるので「桃の節句」とも呼ばれています。ひな人形は、子ども達の身代わりになって病気や事故から守ってくれると言われていています。ひな祭りは平安時代から続く伝統行事です。大切に受け継いでいきたいですね。玄関ホールにひな人形が飾ってありますので、保護者の皆様も園にお越しの際には、是非お子様と一緒に立ち寄りご覧ください。

啓蟄は二十四節気の一つで今年は3月5日にあたります。「啓」とは「ひらく」、「蟄」とは「土中で冬ごもりをしている虫」を意味します。その様な訳で「啓蟄」とは冬ごもりしていた虫たちが、春を感じて土の中からはい出してくる頃を言います。まだ、寒い日が続きますが、ひと雨ごとに気温も上がり、暖かくなっていきます。冬眠していた虫たちを探すのも楽しそうですね。時には親子であぜ道を散歩し、土の中からはい出してきた虫を探してみるのも良い思い出になるかもしれませんね。

国民の祝日である「春分の日」は「自然をたたえ、生物をいつくしむ」ためとして1948年(昭和23年)に定められました。今年は3月20日(木)です。昼と夜の長さが同じでこれから夏至にかけて少しずつ昼が長く、夜が短くなって行きます。春分の日の3日前から7日間を「春の彼岸」、春分の日を「彼岸の中日」と言います。「暑さ寒さも彼岸まで」の通り暖かくて過ごしやすい気温に早くなって欲しいものです。

子ども達は、こども園の生活を通し、たくさんを経験して参りました。この一年間、保護者の皆様には温かいご理解とご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。